

(47) 新国立劇場 東京都 柳澤孝彦 1998年学会賞

(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

内部空間は光の取り入れ方などが見事である。

劇場のすぐ横にオペラシティという商業施設があって、オペラを見た後すぐに食事ができることは、観客にとってうれしいことであろう。しかし、劇場とオペラシティの間にあるガレリアは、それぞれの建物の裏側になっているので、閉鎖的な空間であり、非常口のような印象である。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のたせ方

立地はかなり悲惨である。西新宿のごみごみとした場所で、すぐ横には高速道路の高架が走っている。そのため、この建築が都市景観に対して貢献する余地は始めからほとんど無い。

(c) 長い寿命と強靱な耐久性 コメントなし

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力

大部分の観客は地下鉄でアクセスすると思われる。地下鉄のデザインが悲惨で劇場の玄関口という場所に期待される雰囲気からはほど遠いことが悲しい。

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

熊本県の山村に位置する、村人の憩いの場である。中央の広場はイベントなどに活用されているようである。学校の校庭以外に、しっかりとした広場があるということは、とても良いことだと思う。

特に用もないのに、暇だから来たという感じのお年寄りが結構多い。最近では病院のロビーが老人の社交の場となっていることも多いが、このような建築が健康的なコミュニティを形成できていることは素晴らしい。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

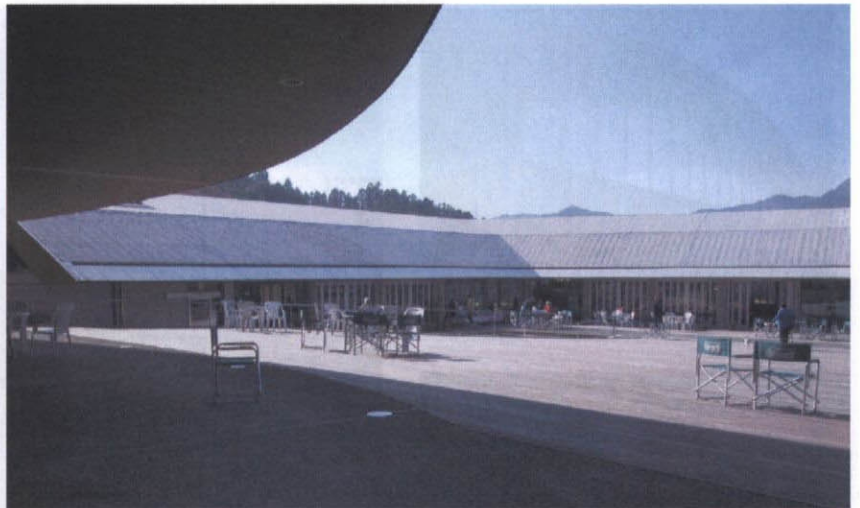
周囲は田畑と山林である。建物の高さが抑えられているので、周囲から見るときにスカイラインを乱したりはしない。また、建物の一角には、周囲を眺めながら飲食のできるスペースが設けられている。

(c) 長い寿命と強靱な耐久性

雨のかかる場所に木材が多用されているので、耐久性がやや不安である。今後のメンテナンスに期待したい。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力 コメントなし

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

木造の構造美が素晴らしい。格技場であるが、畳が敷いてあり、音の響きも良いため、茶会やコンサートなどにも利用されているということである。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

建物の立地是最悪である。RCの普通の学校建築と、プールに挟まれた場所で、ここでは何を作っても、景観的に良い結果は得られなかったであろう。

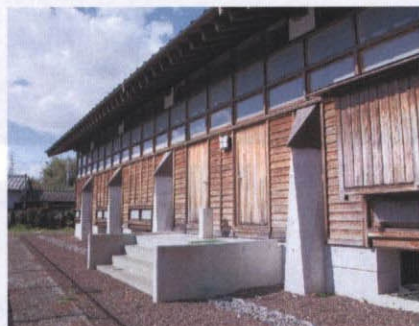
(c) 長い寿命と強靱な耐久性

伝統的な木造の工法を用いており、その気になれば、ばらして別の場所でくみ上げることもできるらしい。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力

高知の「木の文化」を継承・創造しようという試みが素晴らしい。設計者は「土佐派の家」のリーダー格で、土地の素材・工法による建築を重視しており、この作品でもその手法が用いられている。

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(50) 東京国立博物館法隆寺宝物館 東京都 谷口吉生 2001年学会賞

(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

あきれるほど立面の美しい建築である。博物館の入り口から林を抜け、クランク状に曲がるアプローチが、建築の美しさを愛でる上で、効果的である。



内部の展示は数が少ないが、極めて静謐な空間となっており、宝物の価値をより高めている。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

展示室を出ると明るい空間に外部の風景が広がり、展示室の緊張感を和らげてくれる。また、建物の高さは、上野公園という立地場所を考えて3階建てに抑えてある。



(c) 長い寿命と強靱な耐久性 コメントなし

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力 コメントなし

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

非常に個性的なデザインの建物である。その特徴は主に内部空間の木材を利用した仕上げによる。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

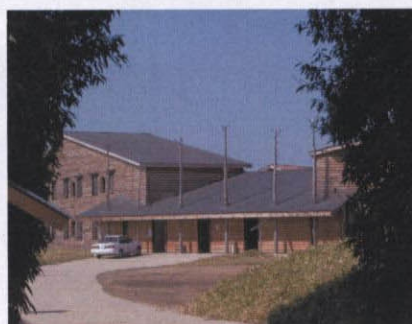
道路と建築の間に築山があり、結界を構成しているのがおもしろい。

周囲はビニールハウスや牧草場が広がっており、木造の建物が周囲の風景とうまく調和している。

(c) 長い寿命と強靱な耐久性 コメントなし

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力 コメントなし

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

この作品には、高く評価できる部分と、全く評価できない部分の両方がある。

高く評価できる部分は、地下鉄のホームのデザインである。設備の場所を当初の計画から移動することにより、東京の地下鉄では珍しい天井の高い空間を創出している。また大江戸線の多くの駅の内装が装飾過剰なのに対して、構造のRCをそのまま用いた美しさも優れている。

それに対して、階段の蜘蛛の巣のような照明は醜悪である。コンピュータを用いたデザインであることが売りらしいが、道具や設計手法の目新しさと、作品の出来映えは何の関係もない。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

換気塔のモニュメントが裏通りに面しているということには非常に驚いた。モニュメントのデザインには賛同できないが、それにも増して、このデザインと「裏」とは全く不釣り合いだと思う。

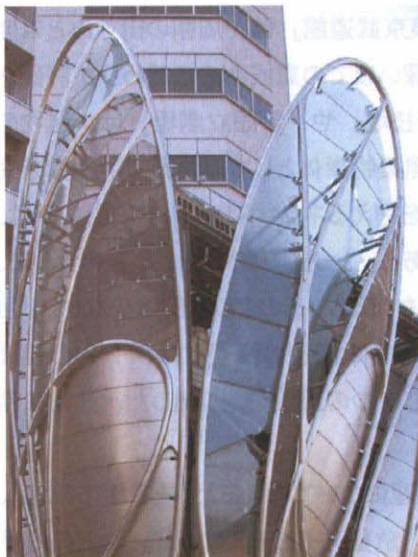
(c) 長い寿命と強靱な耐久性

換気塔のモニュメントは、近い将来には、排気ガスで煤け、水垢でまだらに汚れ、醜悪なものになるのは目に見えている。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力

設備の場所を変更するには、土木技術者とのねばり強い交渉が必要とされたはずであり、その交渉能力に敬意を表したい。

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



7.4.3 建築学会賞受賞建築の評論のまとめ

これまでの評論を、次のようにまとめた。

(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

第5章の建築学会賞の評価基準の分析でも明らかになったことであるが、建築学会賞では、建築の芸術・文化・思想としての側面を重視する。そのため、さすがに美的に問題を感じる作品は、ほとんどない。「KIRIN PLAZA OSAKA」や「日本 26 聖人殉教記念館」、「アテネフランセ校舎」などのように、ほとんど芸術作品といえるようなものもある。

機能に関しては、(当然だが)全ての建築が必要な機能を一応満足しており、「リッカー会館」のように、機能を意匠に上手く意匠に活用した例も見受けられた。また一方では、「藤沢市秋葉台文化体育館」や「地下鉄大江戸線飯田橋駅」「レム棟・クールハース棟」など、機能と意匠の関係に疑問を感じるものもいくつか見受けられた。

構造についても、必要な強度を持っているのは当然として、構造と意匠の優れた関係を持つものが数多く見受けられた。「蛇の目ビル」や「ポラ五反田ビル」、「神戸ポートタワー」「早稲田大学理工学部校舎」「小国町における一連の木造住宅」「関西国際空港旅客ターミナルビル」など、多くの建築家は構造を表現することに長けている。

(b) 周囲との景観的、空間的関連の果たせ方

第5章で述べたように、建築関係者が建築を評価する際、建築を自己完結的に認識している。作品とその周囲との関係については、それが上手くできていれば評価するが、そうでなければ目をつむる傾向にある。

学会賞建築には、公園のなかの公共建築のような、建物が単独に存在し、周囲との関係を議論する余地の少ないものが多い。「佐賀県立博物館」や「北海道開拓記念館」、「藤沢市秋葉台文化体育館」などがその代表例である。一方、「佐賀県立九州陶磁文化館」のように、建物の位置と街の骨格との関連に疑問を感じるものも見受けられた。

自然の中の建築では、「海の博物館」や「シャープ労働組合研修レクリエーションセンター I&I ランド」など、周囲の風景と建築との関係がよく考えられたものもある。

都市内の建築に目を向けると、「東京武道館」は、周囲の街並みとはほとんど何の関係もないが、その執念深いまでの意匠へのこだわりが評価されている。また、「高知県中芸高校格技場」や「新国立劇場」は、建物の周囲の景観は悲惨なものがあるが、建築物単体としての評価で学会賞を受賞している。レム棟・クールハース棟を抱えるネクサスワールドの街並みは、建築家による悲惨な街並みの代表である。一方、「蛇の目ビル」のように、優れた街並みの一員となっているものもあるが、そのような例は少ない。「目神山の一連の住宅」や「古河歴史博物館と周辺の修景」は、一人の建築家が周囲の住民や建築家に支持され、一つの風景を創り出した、非常に希な例である。

地域文化や歴史、風土などとの関連について考えると、「名護市庁舎」、「小国町における一連の木造建築」、「倉敷アイビースクエア」などの好例

がある。

以上のように、周囲との関連が優れた例やそうでない例があるが、全体的な傾向としては、先に述べたように、建築とその周囲の関連は稀薄であることが多い。

(c) 長い寿命と強靱な耐久性

耐久性に関しては、疑問のある学会賞建築がかなりある。「国際情報科学技術アカデミー マルチメディア工房」は、すでにかなり傷んでいる。「用賀Aフラット」は、壁面の汚れがファサードのデザインを台無しにしつつある。また「リッカー会館」のように、設備の更新に対応できず、当初の価値を失っているものも見受けられる。

今は傷んでいない建物でも、「広島世界平和記念聖堂」のように、エージングの効果によって風格を備えるような建築は非常に少ない。また、「倉敷アイビスクエア」は、古い建物のリニューアルが受賞した唯一の例である。

第5章でも述べたように、建築が社会基盤のストックとなっていないことは、建築界でも問題視されている。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力

この項目については評論が困難で、コメントのできない建築が多かった。

まず景観的な意味での計画は、建築ではあまり行われていないという印象を受けた。これは建築家の作業が敷地内に限定されており、敷地の外まで含めた計画を行っていないことが理由の一つだと思われる。結果として、(b)の周囲との景観的関連が稀薄な建築が多い。都市計画分野、土木分野と建築分野とのつながりの悪さが原因なのかもしれない。

施工については、建築学会賞の評価項目にもほとんど現れないものである。「日活国際会館」が当時としては斬新な施工方法が評価された例であるが、その他には、施工精度や施工時の安全性などについては、資料もないので評論ができなかった。

維持管理については、大部分の学会賞建築が概ね良好に維持管理されていた。

(e) 意志決定の柔軟なシステム

建築デザインの意志決定システムが議論や評価の対象になることは極めて希である。ほとんど唯一の例外が「浪合学校」であり、ここでは計画や設計に関して住民参加が積極的に行われ、そのことが高く評価されている。

7.5 筆者による田中賞受賞橋梁の評論

7.5.1 評論の目的と評価基準

この節では、前節と同様に景観デザイン賞の評価基準に基づいて、田中賞受賞橋梁の評論を筆者が行い、それによって従来の土木デザインと景観デザインの評価基準の相違を把握する。

土木分野に属する筆者にとって、また筆者以外の多くの土木技術者にとっても、従来の土木デザインの評価基準は、ほぼ既知のものであるため、ここでは典型的な例を取り上げて評論を行う。評論を行った橋梁のリストを表 7-3 に示す。

景観デザイン賞の評価基準をあらためて次に示す。

- (a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化
- (b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方
- (c) 長い寿命と強靱な耐久性
- (d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力
- (e) 意志決定の柔軟なシステム

表 7-3 評論の対象とした田中賞橋梁

受賞年度	名称	所在地	企業者	ページ
昭和 54 年度	鏡川水道橋	高知県高知市	高知市	7-67
昭和 56 年度	七滝高架橋	静岡県	静岡県	7-68
昭和 58 年度	堀川筋高架橋	神奈川県横浜市山下町	首都高速道路公団	7-69
昭和 59 年度	浜松町構内跨線人道橋	東京都港区海岸 1 丁目	日本国有鉄道東京第二工事局	7-70
昭和 59 年度	第一武蔵野線線路橋（東北新幹線・埼京線）	埼玉県浦和市別所大里	日本国有鉄道東京第三工事局	7-71
平成元年度	六本木・上野駅前高架橋	港区六本木・台東区上野	首都高速道路公団	7-72
平成 5 年度	桃介橋（復元）	長野県木曾郡南木曾町	長野県南木曾町	7-73
平成 6 年度	イナコスの橋	大分県別府市	別府市	7-74
平成 7 年度	松の木 7 号線	秋田県雄勝郡雄勝町	秋田県	7-75
平成 8 年度	南風原高架橋	沖縄県中頭郡西原町～島尻郡南風原町	沖縄開発庁	7-76
平成 9 年度	くじら橋	東京都稲城市	住宅・都市整備公団	7-77
平成 9 年度	牛深ハイヤ大橋	熊本県牛深市	熊本県	7-78

7.5.2 個別の作品の論評

(1) 鏡川水道橋 高知県 昭和 54 年度田中賞

(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

橋だけを取り出してみれば、機能、構造、意匠が上手く統合された、美しい橋である。しかし筆者はこの橋をあまり評価していない。その理由は、次に述べる、周囲との関連の問題があるからである。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

この水道橋のすぐ上流、すぐ下流に隣接して道路橋がある。これらの道路橋は単純な桁橋であり、景観的に優れたものではない。また、鏡川の堤防は、コンクリートのカミソリ堤防であり、堤内地には住宅が密集しており、決して良好な河川景観とはいえない。そのため、この橋がたとえどんなに優れていても、見栄えがしないのである。

また、このような位置にかける水道橋が、はたして目立つべきかどうかという問題もある。将来、護岸が美しく整備され、道路橋も美的に優れたものに架け替えられるかもしれないが、そうなったら、今度はこの橋は目立ちすぎであろう。

この橋が、別の場所に架かっていれば筆者も高く評価したかもしれない。

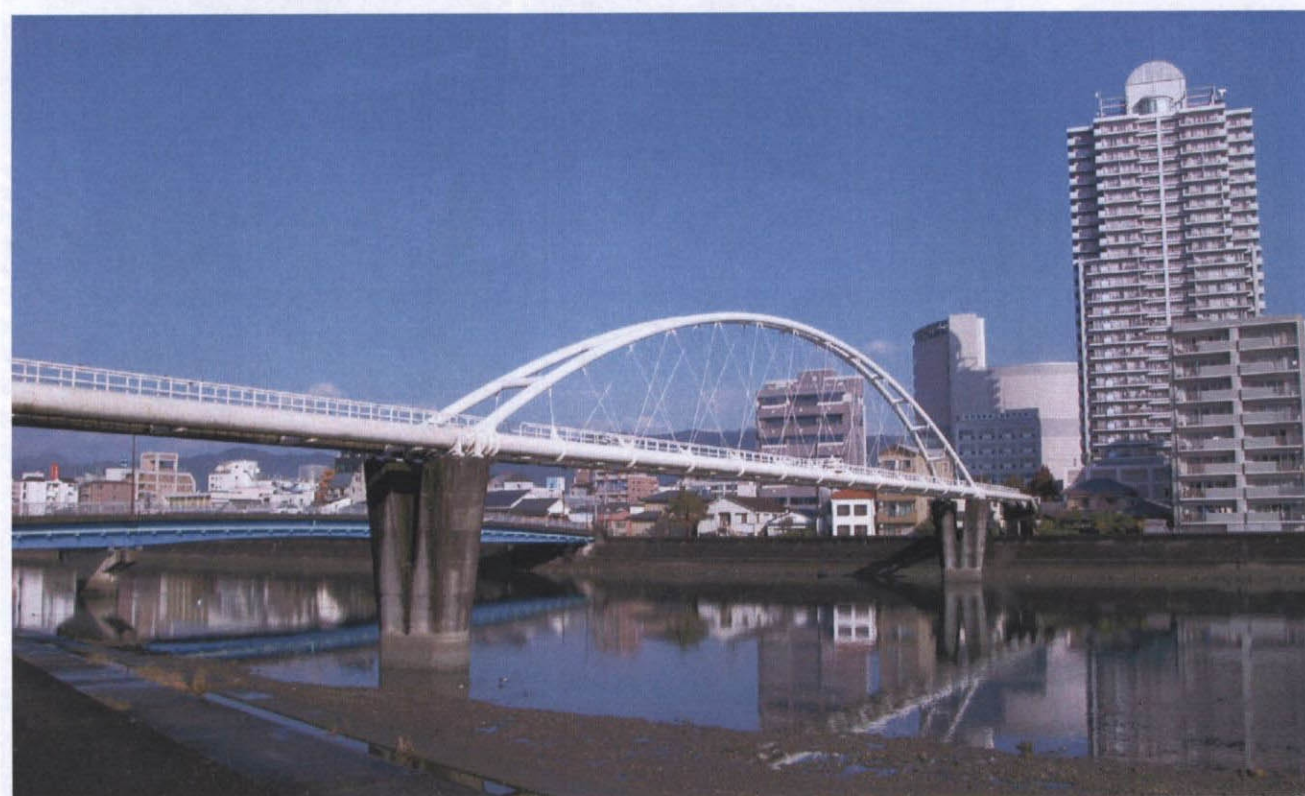
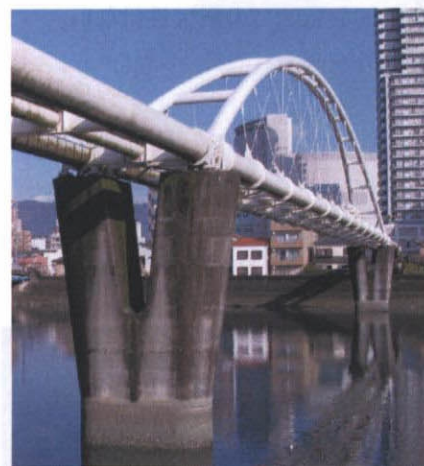
(c) 長い寿命と強靱な耐久性

白いパイプの下面がひどく汚れている。パイプの側面に水切りをつけておけば、汚れはずっと少なくて済んだであろう。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力

高知市には、鏡川、江の口川、国分川などの河川が多く、橋梁の数も多いがデザインは無秩序である。橋を群としてとらえ、橋梁群と街のコンテキストを結びつけた橋梁デザイン計画があれば良いと思われる。

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(2) 七滝高架橋 静岡県 昭和 56 年度田中賞

(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

橋脚のデザイン、配水管の処理、法面の処理などに、景観的な問題が多い。構造と施工の困難を克服したことに価値があるのだろう。田中賞橋梁には、この橋のように、景観的に問題が大きいものの、構造と施工が評価されて受賞しているものが非常に多い。

(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

周囲との関連が検討されているとは思えない。橋の下を通る道路のつけかたなどは、とにかく通ればよいという感じで、涙ぐましい。

ただし、かなり目立ち、印象的な橋なので、周辺の観光施設への案内地図などには、よく表れるランドマークである。ランドマークにふさわしい美しさを備えていないことが惜しまれる。

(c) 長い寿命と強靱な耐久性

おそらく物理的な意味での耐久性に問題はないであろう。しかし、将来何らかの理由で、この橋の架け替えや撤去が計画された場合に、惜しむ人はほとんどいないであろう。この橋は文化的な意味での耐久性はない。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力 コメントなし

(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし



(3) 堀川筋高架橋 神奈川県 昭和 58 年度田中賞

(a) 機能、構造、意匠等に関する諸課題の統合化

横梁の端部の形状や、横梁と桁の接合部、遮音壁の納まりなど、様々な意匠に関する工夫が行われた高架橋である。首都高速道路に比べればはるかに美しく、これなら六本木や上野のように、後から化粧をする必要もないであろう。



(b) 周囲との景観的、空間的関連のもたせ方

仕方がないのだろうが、都市内の貴重なオープンスペースである河川の上空を塞ぐ高架橋は、景観的にはマイナスである。

(c) 長い寿命と強靱な耐久性

かつては、マッシブな橋脚に縦スリットが入って、スマートに見せていたのだが、耐震補強工事のためにスリットが消滅してしまった。

(d) 計画から設計、施工、維持管理までの総合力

川の上に道路を通すという計画は、大いに疑問である。田中賞には「そもそも、そこに橋が必要なのか?」「別ルートにすべきではないか?」というような評価基準は存在しない。



(e) 意志決定の柔軟なシステム コメントなし

